全国学力・学習状況調査について

１．調査の目的

○国が，義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○各教育委員会，学校等が，全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し，その改善を図るとともに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○各学校が，各児童生徒の学力や学習状況を把握し，児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

○児童生徒一人ひとりが，自らの学習到達状況を正しく理解することにより，自らの学力や生活に目標を持ち，また，それらの向上への意欲を高める。

２．調査実施日

令和３年５月２７日（木）

３．調査の対象

泉佐野市立第二小学校 第６学年，全児童

実施児童数（　１１２人　）

４．調査の内容

⑴ 学力に関する調査

ア　教科は，小学校は国語及び算数，中学校は国語及び数学。

イ　出題範囲は，調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし，出題内容は，それぞれの学年・教科に関し，知識・技能に関する内容と，それらを活用する力や構想を立てて実践し評価・改善する力などに関する内容とする。

ウ　出題形式については，選択式及び短答式に加え，記述式の問題とする。

⑵ 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に，学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

⑶ 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に，学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成２９年度より，文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は，整数となっております。

令和３年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

１．全体の傾向

・平均正答数は，全国より 4.7%下回っている。
しかし，学習状況調査より，国語の必要性や，知識の活用，考えを書いたり広げたりの項目では，前回より上回ってきた。　（H３１年度と比較しても大幅に向上）
平均正答率（本校 60／泉佐野市 60／大阪府 63／全国 64.7）

２．学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特　徴　が　み　ら　れ　た　設　問
【読むこと】 〇文章全体の構成を捉え，内容の中心となる事柄を把握することに課題がある。 ２一面ファスナーに関する【資料】の文章が，何について，どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する。(64.9%／77.6%) 〇目的や意図に応じて，理由を的確にしながら，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。	３二まるやまさんの「文章の下書き」の中の下線部を「西田さんの話」を用いて詳しく書き直す。（44.1%／56.6%） 〇学年別漢字配当表に示されている感じを文の中で正しく使うことに課題がある。 ３三（１）ウ・・・原因（44.1%／54.4%） ３三（１）エ・・・原因（68.5%／79.0%）

３．学習状況調査より

質　問　項　目	本校	全国	10%〇 ５%◇	差
（４３）国語の勉強は好きですか。	46.8	53.4	◇	6.6
（４４）国語の勉強は大切だと思いますか。	93.7	93.2		0.5
（４５）国語の授業の内容はよく分かりますか。	81.0	83.2		2.2
（４６）国語の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役立つと思いますか。	92.8	91.8		1.0
（４７）国語の授業では，言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか。	80.7	80.2		0.5
（４８）国語の授業では，目的に応じて，自分の考えを話したり必要に応じたりして質問していますか。	66.6	63.8		2.8
（４９）国語の授業では，目的に応じて，自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか。	69.3	74.6	◇	5.3
（５０）国語の授業では，目的に応じて文章を読み，感想や考えをもったり，自分の考えを広げたりしていますか。	71.1	74.3		3.2

〇文章の構成を捉え，内容の中心となる事柄を把握する問題では，「何について」と「どんな文章構成で」という２つのことを捉える必要がある。

〇目的や意図に応じて，理由を的確にしながら，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題では，２つの条件をおさえることができていないケースが多い。

〇昨年度から，「説明文の家」という考え方を，学校として用い，説明文の三部構成や段落の役割を検討したり，見出しをつけたりしてきた。その成果からか，H31 年には，ほとんどの項目で－5～－10%だった国語に関する学習状況調査が，全国を上回るものも多くなった。国語の必要性や，技能の活用は向上しているので，継続して取り組んで伸ばしたい。

令和３年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

１．全体の傾向

・平均正答数は，全国より 0.2%下回っている。
中間層と上位層の２層を擁しており，学力の２極化が伺える。

平均正答率（本校 69／泉佐野市 68／大阪府 70／全国 70.2）

２．学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特　徴　が　み　ら　れ　た　設　問
○速さに関わる基本的な計算はおおむねできる。 １（２）500mを 7 分で歩くことを基に，1000mを歩くのにかかる時間を書く。(86.5／86.7) １（４）午後１時 35 分から 50 分後の時刻を書く。(86.5／89.2) １（５）分速540mのバスが2700mを進むのにかかる時間を求める式を書く。(82.9／85.1) ○図形を見て必要条件を読み取る力は全国と比べると低い。 ２（１）直角三角形の面積を求める式と答えを書く。(45.9/55.1)	○グラフを読み取ることができる。 ３（１）棒グラフから数量を読み取ることができる。(96.4／95.8) ３（３）データを二次元の表に分類整理することができる。(73.9／67.5) ○わり算の基礎的な学習はできるが，基準量について考え，正しく立式したり意味を説明したりすることは正答率が高くない。 ４（１）示された除法の結果について，日常生活の場面に即して判断することができる。(83.0/84.7) ４（２）商が１より小さくなる等分除（整数÷整数）の場面で，場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し計算をすることができる。(55.5/45.0)

３．学習状況調査より

質　問　項　目	本校	全国	10%○ ５%◇	差
（５２）算数の勉強は好きですか	76.5	67.8	◇	8.7
（５５）算数の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか	94.6	92.6		2.0
（５６）算数の授業で学習したことを，普段の生活の中で活用できないか考えますか	65.7	73.9	◇	7.8
（５７）算数の問題の解き方がわからないときは，あきらめずにいろいろな方法を考えますか	85.5	92.7	◇	7.2

○選択や短答の正答率の高さより，基礎的な力はおおむねついていると考えられるが，なぜそうなるのかを考えて説明したり，読み解いたりする力に課題が残る。
○単位量や小数のわり算などの問題では，基準量の見極めに課題がある。
○図形の問題では，公式の意味理解が弱い。また，図形の向きが変わり，普段見慣れない形での提示になると，条件を見つけることが難しくなる児童が一定数見られる。
○無回答率は全体的に低いといえるが，後半の記述問題では無回答率が高くなる。

令和３年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本 校 ＜ 本 校 回 答 率 ／ 全 国 回 答 率 ＞
【家庭生活の様子】	○自己肯定感が低く，就寝時刻が不規則である。 ○地域の行事の参加率も低い。	○毎日，同じくらいの時刻に寝ていますか。＜69.3／81.2＞ ○自分には，よいところがあると思いますか。＜67.5／76.9＞ ○今住んでいる地域の行事に参加していますか。＜39.6／58.1＞
【家庭学習の様子】	○家庭での読書の時間が短い。 ○休校への不安を感じていると思うが，学習への不安を感じている児童が少ない。	○学校の授業時間以外に，普段１日当たりどれくらいの時間，読書をしますか。１時間以上＜9.9／18.2＞ ○新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中，勉強について不安を感じましたか。＜42.3／55.2＞
【学校での学習の様子】	○ICT 機器を自分の学習に生かす経験が少ないことが考えられる。	○５年生までに ICT 機器をどの程度使用しましたか。週１回以上＜15.3／40.1＞ ○ICT 機器で友だちとの意見交換や，調べ学習にどの程度使用していますか。週１回以上＜19.8／39.0＞

本　校　の　取　組

◎これまでの取組み

（１）研究主題と研究体制

本校では，一昨年度から国語科の読むに焦点を当てて取り組んできた。昨年度（R２年度）から SE 推進事業の指定校（TM 校）となり，昨年度は，「論理的思考を育てるための国語科教育」というテーマで説明文に特化して取り組んだ。「つけたい力」を明確にし，その「つけたい力」が発揮されるゴールの言語活動を設定し，ゴールからの逆向き設計で授業計画を立てることを全学年の全説明文の単元で行った（本校の単元計画シートを使って）。構造や内容の大体をとらえる方法として，『説明文の家』の考え方を全職員で共有。系統だった指導ができるように，説明文に必要な「指示語」「接続詞」「段落の中心」「事例と意見」など，意識すべきことも共有した。

今年度は，「主体的に学びに向かう力～課題について考え，議論する中で，自分の考えを広げ深めていく～」を研究主テーマとし，説明文を重点教材にしながらも，すべての教科の中で「子どもたちの主体性」を育む授業づくりに挑戦してきた。「主体性を育むための視点」として以下の３つの視点を共有している。「①子どもたちの「したい！」「やりたい！」が引き出せているか。②その「教師が○○する」を「子どもが○○する」に置き換えられないか。③子どもたちに自分たちの学びが見えているのか。」この３つを授業づくりの際の視点にしながら，各教科で PDCA サイクルを回してきた。

また，昨年度から，週に１回の「読解チャレンジ（読み取りちゃん）」を各学年行っている。初見の説明文の読解にチャレンジし，振り返りを書き，「自力読みができる力」「意見をもつ力」を養っている。ほかにも，朝学では，算数のプリントに週２回，国語の漢字や文法のプリントを週１回取り組んでいる。

（２）少人数・習熟度別指導

算数科の少人数指導や習熟度別指導は，「①児童一人ひとりの特性を理解し，個に応じた指導を行い，基礎・基本の定着をはかる。②つまずきの克服や学習意欲の向上につながるように，授業方法や授業体制を工夫し，自ら学び自ら考える力を育てる。」ことを目標にしている。

今年度，本校では第３～６学年の算数科において，単元ごとに習熟度別少人数分割授業と単純分割少人数授業を選択して行っている。学力を高めるために話し合い活動を多く設定したり，教材を工夫したりし，より細やかな指導を行っている。また，単元の学習計画や学習進度については，学年・学級担任と少人数担当教員とで綿密な打ち合わせを行い，指導を進めている。

（３）校内学力テスト

国語科では，同じく７月と１１月に市で作成している「書く力」のテスに取り組んでいる。両テストの実施後は分析を行い，本校の取り組みの成果と課題の資料としている。また，学期末には期末のまとめテストや力試しテストの結果の分析も行い，そこから浮かび上がってきた課題について研究推進部会で取り上げ，児童の実態にあった指導体制・指導内容等について意見交換を行い，より効果的な学習指導が進められるよう取り組んでいる。

（４）その他

子どもたちの作品を１階に掲示する取り組みや，廊下や階段への学習内容の掲示（ことわざ・四字熟語・ローマ字・学年の漢字表などいろいろ）も，TM 校になってから，いろいろな取り組みをしている。子どもたち同士の教え合い（４年生が３年生のわり算をみたり，１年生の足し算引き算のカードを聞いてあげたりする）も何度か行っている。

◎これからの取組み

国語科において学習状況調査からは，「国語の授業が好きですか」という項目や「国語の授業では，目的に応じて，自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか。」という項目では，まだ全国と５％ぐらいの開きがある。Ｈ３１年度と比べると，Ｈ３１年度の国語科の学習状況調査では，全国より多くの項目が１０％近くマイナスだったにも関わらず，今年度は大幅に改善し，内容によっては，全国とほぼ同じ，または全国より少しプラスのものも出てきた。分析すると，子どもたちは「国語科の大切さ，将来役立つこと」をよく理解していることがわかり，国語科の中で意識して知識を理解したり使ったりしようとしているのがわかる。これは，ここ数年，「国語科」に焦点を当て『説明文の家』などのツールを共有して使い，系統立てた指導に取り組んでいる成果だと思われる。今後も，この２年で積み上げてきた説明文の単元計画の練り方と，共有している考えを校内全体で大切にし，さらに，子どもが考えを持ち，考えを順序良く相手に伝わるように述べる力を，国語科を中心に全教科で育成していきたい。

「国語の授業が好きですか」の結果でわかるようにまだまだ国語に対して苦手意識，おもしろくないという意識を持っている児童が多いことがわかる。今年度から取り組んでいる主体性を育む授業づくりの３つの視点にもあるように，子どもが「したい！」「やりたい！」と思え，子どもが学びの中心になり，子ども自身に自分たちの伸びが感じられる授業づくりに取り組んでいきたい。特に，子どもたちの必要感，チャレンジの気持ちをくすぐる「子どもの目線に立った授業づくり」を創意工夫していきたいと考える。さらに，国語の授業では，「目的に応じて自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか」という項目が弱いところから，まずは国語科で，自分の考えを述べ，そう思った根拠を挙げ関連付けて書く活動を意識して取り組みたい。国語科で丁寧に，かつ，児童自身が自分の成長を実感できるように指導し，全教科で考えを書く活動を実施したい。

国語科の問題では，「文章全体の構成を捉え，内容の中心となる事柄を把握すること」に課題がある。昨年度から取り組んでいる『説明文の家』など，構造や大体の内容をとらえるツールを校内で引き続き共有し，段落や場面の流れに沿ってじっくり読んでいく読み方だけでなく，子ども自身の力で大体の内容をとらえていき，「筆者の主張」または「物語のクライマックス」を捉え，細部を叙述をもとに読み取

っていくという授業づくりに取り組んでいきたい。ほかの週１回の取り組みの「読解チャレンジ」問題や朝学の文法や漢字の問題は引き続き実施していきたいと考える。

算数科においては，「基礎学力の定着」「応用問題への取り組み」の二つの観点から，週に２日朝学習の時間を設けて取り組んでいる。基礎学力の定着のために基本的な四則の問題を週に２日行い，応用問題への取り組みのために月に一度Ｂ問題への取り組みを行っている。また習熟度別分割学習の際には，じっくりコースの児童には基礎の練習プリントを，どんどんコースの児童には毎時の課題の後に取り組めるＢ問題プリントや記述式問題のプリントや論理力を養うためのクイズ方式の問題などを準備し，児童の積極的な学びにつなげたり，実態に合わせた問題に取り組んだりできるような環境を整え，学力の向上に取り組んでいる。

基礎的な知識や技能は比較的定着しており，日々の学習の成果が出ていると考えられる。しかし，授業内に単元名から課題を把握し解決することはできても，実際に文章を読み取り，四則のうちどれを使って解決するのか，数字をどのように使って立式をするのか，と考える力にはまだまだ課題がある。特にかけ算やわり算の学習において「１あたり量」の理解の定着に課題が見られるため，多くの文章問題に触れたり文章で与えられた問題を図示したりするなどの手立てを行い，課題を明確に読み取る力をつけるような取り組みを行っていく。また，算数の時間外にも様々な問題に触れる機会をつくり，立式の判断を素早くできるように学力の定着をさらにはかる必要がある。選択式問題とその根拠を説明する力や自分の考えを表現する力等にも課題がある。これらの課題解決に向けて，自分の考えを書く活動とともに，ペア学習やグループ学習を多く取り入れ，児童が自分の考えを表現する機会をより多く設定する必要がある。

それ以外にも，個々の児童の成果や課題を確実に把握するために，算数アンケートを行っていく。課題を克服するため，より言語活動を充実させ，個に応じた指導のあり方の研究を進めていく。教材研究，単元の学習計画，学習進度，児童個々の評価については，学校全体で共通理解し研究を進めていく。